頭ヶ島の集落
19世紀半ばに病人の療養地として使われていた頭ヶ島に潜伏キリシタンが移住し、信仰を続けていた集落。写真左は近くの島などで石を切り出し建てられた頭ヶ島天主堂

密かな信仰の証……❾ 頭ヶ島の集落（新上五島町）

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

療養地であった島に移住し信仰を続けた集落

頭ヶ島（かしらがしま）は、五島列島の中通島（なかどおりじま）に隣接する周囲約8kmの島で、19世紀中頃までは無人島でした。1858年、中通島の有川から仏教徒が開拓を目的に移住し、翌年には中通島の鯛ノ浦（たいのうら）から潜伏キリシタンが数家族移住しました。彼らは、外海（そとめ）から中通島へ移住し、表向きは仏教徒を装いながら暮らしていましたが、さらなる安住の地を求めて頭ヶ島を再移住先に選び、頭ヶ島の潜伏キリシタン集落形成のきっかけとなりました。

大浦天主堂での信徒発見後の1867年には、上五島の潜伏キリシタンの指導者であったドミンゴ松次郎（まつじろう）が移住し、白浜地区に構えた住居を「仮の聖堂」として活動。解禁後の1887年、その近くに木造の教会堂を建て1914年まで使用しました。1919年には「仮の聖堂」が存在した付近に石造りの頭ヶ島天主堂が建てられ、現在も信仰の歴史を物語っています。

ドミンゴ松次郎屋敷跡（仮聖堂跡）
1867年、上五島のキリシタンの指導的な立場にいたドミンゴ松次郎は、大浦天主堂のクザン神父を招き、居宅に置かれた仮聖堂でミサを行った。それを知った五島各地のキリシタンが大挙して集まり、頭ヶ島は五島列島におけるキリシタンの拠点の一つになりつつあった

問合せ　県の世界遺産登録推進課　☎095-894-3171

長崎から世界遺産を　検索

県では、皆さんからの寄附をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業に助成します。ご協力をお願いします。
長崎県　構成資産へ寄附　検索

［発行］長崎県広報課　〒850-8570（住所不要）
TEL.095-824-1111　FAX.095-828-7665
知事の会見や県政番組は　よかテレ　検索　よかテレ nagasaki yokayoka tv